

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0272701095
法人名	医療法人 仁泉会
事業所名	グループホーム小春びより2号館
所在地	三戸郡新郷村大字戸来字金ヶ沢坂ノ下9番地 (電話) 0178-61-7550
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年1月27日

【情報提供票より】(平成21年12月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	理美容代ほか	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(12月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	71 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五戸総合病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人、しんごうグループ、ホーム、それぞれの3つの理念を掲げている。ホーム独自の理念は全職員で作成しており、「地域との交流を図り 家庭的な雰囲気の中で その人らしくありのままに 安心して生活できる第二の我が家」と掲げ、全職員で毎朝3つの理念を唱和し、確認と意識付けを行っている。また、理念のほかに、ホーム全体の接遇重点目標や個人目標を掲げており、利用者へのサービス向上につなげている。

利用者や家族、職員が十分に話し合っ一人ひとりの要望を把握し、利用者が安心して生活できる環境作りに努めている。また、常に利用者本位を念頭に置き、利用者と職員と一緒に料理や洗濯物たたみを行うなど、一人ひとりが得意な分野で活躍できる場を作り、お互いが楽しみ、支え合いながら生活している。

利用者の日々の生活リズムや暮らしぶりを十分観察し、利用者や家族の意向を十分反映させると共に、職員の気づきも取り入れた介護計画を作成している。

各居室に温・湿度計を設置し、快適に過ごせる環境を整えている。また、居室入口には、笑顔溢れる利用者の写真や作品を飾るなど、一人ひとり個性のある空間となっている。

【特に改善が求められる点】

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果を基に改善策を検討しており、年間研修計画に外部研修についても盛り込むほか、災害時に備えた各種物品を用意するなど、サービス改善に向けた取組を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価の意義や活用方法を理解しており、自己評価には全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1回開催しており、家族代表者や行政担当者、町内会長等が参画している。会議では、ホームの活動内容や日々の取組、自己評価及び外部評価結果、改善策等を報告し、話し合いを行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や電話等で、利用者の生活状況や受診状況等を定期的に家族に報告している。金銭管理状況は、領収書を添付して毎月家族に報告している。</p> <p>重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示し、継続的に家族に周知している。また、玄関にご意見箱を設置するなどの取組も行っている。家族から出された意見や要望は、職員会議で話し合い、今後のより良いサービス運営につなげている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域主催の行事やイベントに積極的に参加し、地域住民との交流を深めている。また、近隣の保育園児が手作りカレンダーを毎年持参するほか、保育園の運動会やクリスマス会などに参加している。ボランティアや実習生を受け入れる体制を構築しており、ボランティア募集の取組も行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組状況
I 理念に基づく運営	<p>法人本部、しんごうグループ全体、ホーム、それぞれの理念を掲げている。ホームの理念は全職員で作り上げており、「地域との交流を図り 家庭的な雰囲気の中で その人らしくありのままに 安心して生活できる第二の我が家」と掲げている。</p> <p>しんごうグループの管理者が持ち回りで講師を努め、日常生活自立支援事業等の勉強会を実施し、制度の理解を深めている。制度を利用している方はいないが、いつでも利用者及び家族の求めに応じられるよう、情報提供等を行う体制を整えている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、見学や体験入居を促し、利用者や家族との信頼関係を築くよう努めている。また、一人ひとりの要望にそった支援を提供できるよう、要望や生活状況等を確認し、調整している。</p> <p>利用者との日々の関わりを通して、一人ひとりの喜怒哀楽を理解できるよう努めている。調理や掃除等、利用者とのコミュニケーションを図りながら、一人ひとりが活躍できる場面を作っており、利用者から学んだり、共に支え合う関係を構築している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時には、利用者の生活リズムや暮らしぶり、要望等を把握し、十分反映させるよう努めている。また、ケア検討会議で職員の気づきや意見を取り入れており、個別具体的な計画となっている。</p> <p>介護計画の実施期間を明示し、3ヶ月毎に見直している。また、家族の要望や利用者の身体状況等に変化があった時は、随時見直している。</p> <p>短期利用を支援できる体制を整えるほか、受診や墓参り、馴染みの床屋、スーパーの買い物等への外出支援を行うなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者本位を常に念頭に置き、一人ひとりの希望や要望を大切にケアを提供するよう努めている。また、利用者の声に耳を傾け、買い物や散歩等、個々のペースで生活できるよう支援している。</p> <p>法人本部の管理栄養士が、栄養バランスのとれた献立を作成している。また、グループ内の管理栄養士から助言を得たり、相談できる体制を整えている。食事や水分の摂取量は、その都度記録している。</p> <p>感染症予防に努めると共に、玄関への掲示や広報誌等を利用し、感染症に関する情報を家族等にも周知している。感染症対応マニュアルを整備し、最新情報を得た時等は随時見直している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人本部、しんごうグループ全体、ホーム、それぞれの理念を掲げている。ホームの理念は全職員で作っており、「地域との交流を図り 家庭的な雰囲気の中でその人らしくありのままに 安心して生活できる第二の我が家」と掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝全職員で理念を唱和し、共有を図っている。また、理念のほかに、ホーム全体の接遇重点目標や個人目標を掲げ、理念の実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域主催の行事やイベントに積極的に参加し、地域住民との交流を深めている。また、近隣の保育園児が手作りカレンダーを毎年持参するほか、保育園の運動会やクリスマス会などに参加している。ボランティアや実習生を受け入れる体制を構築しており、ボランティア募集の取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年1回、自己評価を全職員で取り組み、全体会議でまとめている。また、外部評価の結果を全職員に周知すると共に、改善策の検討を行い、改善に向けての取り組みを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催している。会議では、自己評価及び外部評価の結果等を詳細に説明しており、改善計画などを話し合い、サービスの質の向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者には、定期的にしんごうグループの広報誌や自己評価、外部評価等を報告している。また、日常的に電話相談するなど、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	しんごうグループの管理者が持ち回りで講師を務め、日常生活自立支援事業等の勉強会を実施し、制度の理解を深めている。制度を利用している方はいないが、いつでも利用者及び家族の求めに応じられるよう、情報提供等を行う体制を整えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連の勉強会を開催し、全職員が理解を深めている。管理者は、職員間の意見交換を定期的に行ってストレス軽減を図るなど、虐待を未然に防ぐよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分時間をかけて方針や日々のケア等を利用者や家族に丁寧に説明すると共に、不安や疑問があればいつでも職員に相談してもらうよう話している。契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ており、退居時には退居先に関する情報提供を行うなどの取り組みを行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話等で、利用者の生活状況や受診状況等を定期的に家族に報告している。金銭管理状況は、領収書を添付して毎月家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示し、継続的に家族に周知している。また、玄関にご意見箱を設置するなどの取り組みも行っている。家族から出された意見や要望は、職員会議で話し合い、今後のより良いサービス運営につなげている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者への影響を理解しており、異動等を行う時は職員間の引継ぎ等を行っている。職員異動や離職については、面会時や広報誌、運営推進会議等の場で家族に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の年間計画を作成し、個々の経験に応じた研修に職員を派遣している。受講後は報告書を作成し、報告会を随時開催して全職員に周知している。法人内の職員がスーパーバイザーとなり、業務に関する相談に応じている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修会に参加するなど、同業者と交流を図る機会を設けている。また、法人内の他グループホームとの情報交換も行うなど、同業者間のネットワークを構築している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、見学や体験入居を促し、利用者や家族との信頼関係を築くよう努めている。また、一人ひとりの要望にそった支援を提供できるよう、要望や生活状況等を確認し、調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との日々の関わりを通して、一人ひとりの喜怒哀楽を理解できるよう努めている。調理や掃除等、利用者とのコミュニケーションを図りながら、一人ひとりが活躍できる場面を作っており、利用者から学んだり、共に支え合う関係を構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりを通じて、一人ひとりの希望を把握するよう努めている。また、必要に応じて家族から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者の生活リズムや暮らしぶり、要望等を把握し、十分反映させるよう努めている。また、ケア検討会議で職員の気づきや意見を取り入れており、個別具体的な計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示し、3ヶ月毎に見直している。また、家族の要望や利用者の身体状況等に変化があった時は、随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用を支援できる体制を整えるほか、受診や墓参り、馴染みの床屋、スーパーの買い物等への外出支援を行うなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関を確保し、いつでも相談できる体制を整えている。受診結果は、電話や面会時を通じて、随時家族に詳細に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しない方針を明確化し、入居時に利用者や家族に詳細に説明し、同意を得ている。急変時や日々の健康管理の対応については、利用者や家族、医療機関と話し合い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重した対応に努めている。また、マニュアルを整備すると共に、研修会や勉強会で個人情報保護法について理解を深めている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を常に念頭に置き、一人ひとりの希望や要望を大切にケアを提供するよう努めている。また、利用者の声に耳を傾け、買い物や散歩等、個々のペースで生活できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを十分把握して献立を作成するほか、利用者と職員と一緒に畑で収穫した新鮮な野菜を食材に使用している。利用者と一緒に調理や盛り付けを行うなど、食事を楽しめるよう工夫している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により、いつでも入浴できる体制を整えている。また、足浴を毎日実施している。入浴時は羞恥心等に配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に利用者や家族から生活歴等を聞いており、茶碗拭きや清掃、洗濯物たたみなどの役割を、個々の力量等に合わせて促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や近隣の公園への散歩等、積極的に外出する機会を設けている。また、利用者の要望を聞きながら、お墓参りや自宅訪問への外出も支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会で身体拘束について理解を深める取り組みを行っている。また、マニュアルを整備し、身体拘束しないケアを提供している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守り支援を重視し、日中は鍵をかけない方針で運営している。引き戸には鈴を取り付ける等、利用者の外出傾向を察知できるよう工夫している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の消防団等が参画し、日中及び夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。また、非常災害時に備えて、毛布や飲料水、非常食を備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の管理栄養士が、栄養バランスのとれた献立を作成している。また、グループ内の管理栄養士から助言を得たり、相談できる体制を整えている。食事や水分の摂取量は、その都度記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に努めると共に、玄関への掲示や広報誌等を利用し、感染症に関する情報を家族等にも周知している。感染症対応マニュアルを整備し、最新情報を得た時等は随時見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や壁には、季節感溢れる利用者の作品を随所に展示している。共用スペースには畳の小上がりやソファを置くなど、家庭的な雰囲気を出す工夫を行っている。また、天窓から自然光が入り、居心地の良い空間となっている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口に写真や作品を飾る等、利用者の希望にそった空間を作るよう支援している。		

※ は、重点項目。